

中 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
1	基礎研究	2
2	研究の進め方	2
3	研究構想図	3
V	研究内容	4
1	題材に関わる既習の知識や技能を生かして生徒が学習できる 授業展開の工夫	4
2	音楽的な見方・考え方を働かせて表現したり鑑賞したりする 学習場面の工夫	4
3	学習した内容を振り返り、生徒が学んだことの意味や価値を 自覚できる指導の工夫	4
4	我が国や郷土の伝統音楽の学習において主体的な学びを 実現するための具体的な工夫を生かした実践事例	5
VI	研究の成果と課題	15
1	研究の成果	15
2	研究の課題	16

研究主題

我が国や郷土の伝統音楽の学習において 主体的な学びを実現するための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）では、音楽科において更なる充実が求められる内容として、主に次の3点が挙げられている。

- 感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと。
- 我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと。
- 生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくこと。

このような指摘を踏まえ、研究員各自の学習指導を振り返ったところ、特に我が国や郷土の伝統音楽の学習における具体的な課題として、次のような内容が挙げられた。

- 生徒が我が国や郷土の伝統音楽に関わる既習の知識や技能を生かし、見通しをもって学習するとともに、学習を積み重ねること。
- 生徒が音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽活動の楽しさを体験しながらすすんで学習し、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わったり愛着をもったりすること。
- 生徒が学んだことの意味や価値を自覚し、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうとともに愛着をもち、音楽文化と豊かに関わること。

本研究では、研究員の所属校における以上のような生徒の課題に基づき、共通研究テーマである『『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善』を踏まえ、具体的な授業改善について検討した。その結果、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するために、特に我が国や郷土の伝統音楽の学習指導において、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせた「主体的な学び」を実現する授業改善が必要であると考えた。

そこで、本研究では、目指す生徒像を「既習の知識や技能を活用しながら、音楽的な見方・考え方を働かせて学習し、我が国や郷土の音楽に愛着をもち、音楽文化と豊かに関わることのできる生徒」とし、研究主題を「我が国や郷土の伝統音楽の学習において主体的な学びを実現するための指導の工夫」と設定した。

II 研究の視点

研究主題に迫るため、次の三つの視点から効果的な指導方法を検討し、検証授業による実践研究を行う。

- 題材に関わる既習の知識や技能を生かして生徒が学習できる授業展開の工夫
既習の知識や技能を活用しながら、生徒が見通しをもって新たな知識や技能を習得したり活用したりして、学習を積み重ねることができるよう、授業展開を工夫する。
- 音楽的な見方・考え方を働かせて表現したり鑑賞したりする学習場面の工夫

生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて学習している姿を想定し、その姿が実現できるよう、曲にふさわしい表現を試行錯誤したり、音楽のよさを味わって聴いたりする学習場面を工夫する。

- 学習した内容を振り返り、生徒が学んだことの意味や価値を自覚できる指導の工夫
学習した内容や学習の過程を振り返り、学んだことの意味や価値、自らの変容などを生徒が自覚できる学習場面や発問、ワークシートを工夫する。

III 研究仮説

以下の三点を工夫することにより、音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びを促し、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうとともに愛着をもち、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けることができるであろう。

- 題材に関わる既習の知識や技能を生かして学習できるよう、授業の展開を工夫する。
- 生徒が感性を働かせ、曲にふさわしい表現を自ら試行錯誤したり、音楽のよさを味わって聴いたりする場面を工夫する。
- 学習した内容を振り返り、学んだことの意味や価値を自覚できる学習場面や発問、ワークシートを工夫する。

IV 研究方法

1 基礎研究

次の文献等及び研究員各自の実践から、音楽科の学習指導における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた課題について検討するとともに、授業改善に向けて研究・協議を行った。

- ・ 「中学校学習指導要領」(平成 29 年 3 月)
- ・ 「中学校学習指導要領解説音楽編」(平成 29 年 7 月)
- ・ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中央教育審議会、平成 28 年 12 月 21 日)
- ・ 「平成 30 年度 教育研究員研究報告書 中学校『音楽』」(東京都教育委員会)

2 研究の進め方

文献等及び研究員各自の実践の状況から課題を整理することにより、基礎研究を行った。その過程で、各研究員が、特に我が国や郷土の伝統音楽を扱う題材の学習指導に課題意識をもっていたことから、我が国や郷土の伝統音楽の学習指導における課題に焦点化して授業改善の方向性を検討し、研究仮説を立てた。その上で、研究仮説に基づいて検証授業を行い、我が国や郷土の伝統音楽の学習において、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせながら主体的に学び、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する指導であるか検証した。なお、検証に当たっては、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて主体的に学習している姿を想定して授業結果と比較するとともに、題材の導入からまとめまでの生徒の変容が見て取れるよう工夫したワークシートを用いて、目指す生徒像に近付いているか検証した。

3 研究構想図

〈共通研究テーマ〉『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善

〈音楽科に求められていること〉

- 生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること。
- 生徒の音楽的な見方・考え方を働かせ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を進めること。

〈指導上の課題〉

我が国や郷土の伝統音楽に関わる指導において、以下の課題がある。

- 生徒が題材に関わる既習の知識や技能を生かして見通しをもって学習するとともに、学習を積み重ねること。
- 生徒が音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽活動の楽しさを体験しながらすすんで学習し、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わったり愛着をもったりすること。
- 生徒が学んだことの意味や価値を自覚し、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうとともに愛着をもち、音楽文化と豊かに関わること。

研究主題

**我が国や郷土の伝統音楽の学習において
主体的な学びを実現するための指導の工夫**

〈研究仮説〉

以下の三点を工夫することにより、音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びを促し、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうとともに愛着をもち、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けることができるであろう。

- 題材に関わる既習の知識や技能を生かして学習できるよう、授業の展開を工夫する。
- 生徒が感性を働かせ、曲にふさわしい表現を自ら試行錯誤したり、音楽のよさを味わって聴いたりする場面を工夫する。
- 学習した内容を振り返り、学んだことの意味や価値を自覚できる学習場面や発問、ワークシートを工夫する。

〈検証方法〉

- ワークシートの記載内容を確認し、生徒が既習の知識や技能を生かして学習することができたか検証する。
- あらかじめ想定した、音楽的な見方・考え方を働かせて主体的に学習している生徒の姿と授業結果とを比較し、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて、曲にふさわしい表現を自ら試行錯誤したり、音楽のよさを味わって聴いたりすることができたか検証する。
- 題材の導入からまとめまでの生徒の変容が見て取れるよう工夫したワークシートを用いて、目指す生徒像に近付いたかを記載内容から検証する。

V 研究内容

1 題材に関わる既習の知識や技能を生かして生徒が学習できる授業展開の工夫

本研究における「題材に関わる既習の知識や技能」とは、音楽科等における既習の知識や技能及び小学校までの学びを指す。それらを生かして、生徒が見通しをもって新たな知識や技能を習得したり活用したりして学習を積み重ねることができるよう、次の点を工夫する。

- 題材に関わる生徒の既習の知識や技能を把握し、それらの知識や技能を効果的に生かすことで見通しをもったり学習を焦点化したりしながら、新たな知識や技能を習得したり活用したりする場面を設定する。

2 音楽的な見方・考え方を働かせて表現したり鑑賞したりする学習場面の工夫

音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」である。本研究では、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて学習することができるよう、次の点を工夫して検証授業を行う。

- 生徒が「音楽に対して感性を働かせている」、「音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えている」、「音や音楽を、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けている」といった、音楽的な見方・考え方を働かせている姿をあらかじめ想定し、その姿が実現できるよう、曲にふさわしい表現を試行錯誤したり、音楽のよさを味わって聴いたりすることができる学習場面を工夫する。

3 学習した内容を振り返り、生徒が学んだことの意味や価値を自覚できる指導の工夫

中学校学習指導要領解説音楽編（平成 29 年 7 月）では、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも 1 単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。」とされ、「題材など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか」等の視点で授業改善を進めることが示されている。

本研究では、生徒が学習したことを振り返り、学んだことの意味や価値を自覚できるよう、以下の二点から工夫する。

- 学習した内容や学習の過程を振り返り、学んだことの意味や価値などを生徒が自覚できる学習場面や発問の工夫
- 生徒が自らの変容を感じ取り、次の学習に生かすことのできるワークシートの工夫

4 我が国や郷土の伝統音楽の学習において主体的な学びを実現するための具体的な工夫を生かした実践事例

(1) 実践事例 1

ア 題材名

我が国の伝統芸能「能」に親しみ、そのよさを味わおう（第3学年）

イ 内容のまとめ

〔第2学年及び第3学年〕「A表現」(1)歌唱の活動及び〔共通事項〕(1)

「B鑑賞」(1)鑑賞の活動及び〔共通事項〕(1)

ウ 題材の目標

- ・ 謡曲の発声、言葉と節回しとの関わりなどの特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性を理解するとともに、謡曲にふさわしい表現に必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能の初歩を身に付けて表現する。
- ・ 音楽を形づくっている要素（音色、旋律）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように表現するかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫するとともに、音楽表現の固有性について考え、能のよさや美しさを味わう。
- ・ 能に関心をもち、謡曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習や能のよさや美しさを味わう学習に主体的・協働的に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。

エ 本題材で扱う中学校学習指導要領（平成29年3月）の内容

第2学年及び第3学年 A表現(1)歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能

第2学年及び第3学年 B鑑賞(1)鑑賞

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

(ウ) 音楽表現の共通性や固有性

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性

[本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素]

音色、旋律

オ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
① 謡曲に関心をもち、謡曲にふさわしい表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。(歌唱) ② 能に関心をもち、能のよさや美しさを味わう学習に、主体的・協働的に取り組もうとしている。(鑑賞)	① 音楽を形づくっている要素(音色、旋律)や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように表現するかについて思いや意図を持っている。	① 謡曲にふさわしい歌唱表現で表現するために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能の初歩を身に付けて表現している。	① 音楽を形づくっている要素(音色、旋律)や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現の固有性について考え、能のよさや美しさを味わって聴いている。

カ 本題材における具体的な指導の工夫

【題材に関わる既習の知識や技能を生かして生徒が学習できる授業展開の工夫】

既1 歌唱における既習の技能である発声(音色)や、旋律についての知識を生かし、それらと謡曲の発声(音色)や旋律の音楽的な特徴との比較を通して、音色と旋律に焦点化して授業を展開する。

既2 謡曲を表現する学習で得た知識や技能を生かし、見通しをもって能の鑑賞の学習に臨むことができるよう、授業展開を工夫する。

【音楽的な見方・考え方を働かせて表現したり鑑賞したりする学習場面の工夫】

見1 生徒が謡曲に出会う場面で、教員が範唱することで、生徒の感性を働かせるよう学習場面を工夫する。

見2 発声や旋律について、合唱の演奏表現と比較しながら、謡曲にふさわしい表現を試行錯誤する場面を設定する。

見3 謡曲を表現する学習で知覚・感受したことと、能の舞台・伝統等とを関連付けて捉えることができるよう、学習場面を工夫する。

【学習した内容を振り返り、生徒が学んだことの意味や価値を自覚できる指導の工夫】

振1 生徒の変容を見取ることのできるワークシートを用いて授業を行うとともに、学習の過程を振り返る場面を設定し、生徒が学びを自覚できるよう工夫する。

振2 学習の過程を振り返るよう補助発問を工夫し、音楽の多様性の理解につながる学習を行ったことを自覚するよう促し、価値付ける。

キ 本題材において音楽的な見方・考え方を働かせている生徒の姿(イメージ)

【音楽に対して感性を働かせている姿】

教員による謡曲の範唱を聴き、「重々しくて呪文のような声で歌っている。」や、「これまでに聴いたことのないお経のような歌で、怖い感じがする。」等と、謡曲を主体的に捉え、知覚したり感受したりしている姿

【音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えている姿】

発声や旋律について、謡曲と合唱とで比較しながら、「謡曲の旋律は合唱に比べて抑揚が

少ない。」「合唱と同じ発声で演奏すると、滑稽になってしまう。」等と、知覚したことと感受したことを関連させながら音や音楽を捉えている姿

【音や音楽を、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けている姿】

「謡曲の独特の発声は、日本語にふさわしい発声で、面を付けても響くよう工夫されていた。」「初めはお経のように感じた変化の少ない旋律は、日本語の抑揚を生かした旋律だった。」など、知覚・感受したことと、能の舞台・伝統や言葉等とを関連付けている姿

ク 題材の指導と評価の計画（3時間）

次	時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 指導の工夫	評価規準(評価方法)
1	1 (本時)	<p>◆謡曲「羽衣」の音色、旋律を知覚・感受しながら、どのように表現するか思いや意図をもつ。</p> <p>○既習の知識や技能を生かして、謡曲の音色と旋律の特徴を知覚し、それらが生み出す雰囲気を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見1 教員による謡曲の範唱を聴く。 ・見1 既習の合唱曲「河口」の旋律と謡の旋律とを比較する。 ・既1 合唱の発声（音色）と謡曲の発声（音色）とを比較する。 <p>○どのように表現するかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・謡曲にふさわしい表現の工夫について仮説を立てる。 	<p>音楽を形づくっている要素（音色、旋律）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>【創-①】（観察、ワークシート）</p>
	2	<p>◆謡曲に関心をもち、謡曲にふさわしい表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組むとともに、謡曲にふさわしい歌唱表現で表現するために必要な技能の初歩を身に付けて表現する。</p> <p>○謡曲にふさわしい歌唱表現を、グループごとに創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に立てた仮説を振り返り、本時の見通しをもつ。 ・見2 グループごとに歌唱表現を創意工夫する。 ・グループごとに工夫したポイントを発表し、実演する。 ・振1 謡曲の音色と旋律の特徴や、それらが生み出す雰囲気を振り返り、整理する。 	<p>謡曲にふさわしい歌唱表現で表現するために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能の初歩を身に付けて表現している。</p> <p>【技-①】（観察）</p> <p>謡曲に関心をもち、謡曲にふさわしい表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p> <p>【関-①】（観察、ワークシート）</p>
2	3	<p>◆能に関心をもち、能のよさや美しさを味わう学習に、主体的・協働的に取り組むとともに、知覚・感受したことを基に、能のよさや美しさを味わう。</p> <p>○前時までの学習を生かして、音楽的な見方・考え方を働かせながら能を鑑賞し、そのよさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既2 前時を振り返り、謡曲を謡い、「羽衣」を鑑賞する。 ・面や舞台など、能についての基本的な事項を知る。 ・見3 再び「羽衣」を鑑賞し、発声や言葉と面や舞台との関係について考える。 ・振1 振2 学習を振り返り、学んだことの意味や価値を自覚する。 	<p>音楽を形づくっている要素（音色、旋律）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現の固有性について考え、能のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>【鑑-①】（観察、ワークシート）</p> <p>能に関心をもち、能のよさや美しさを味わう学習に、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p> <p>【関-②】（観察）</p>

ケ 本時（全3時間中の第1時間目）

○ 本時の目標

謡曲「羽衣」の音色、旋律を知覚・感受しながら、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。

○ 本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 指導の工夫	評価規準(評価方法)
導入 (12分)	○能と謡曲について知る。 ・羽衣「東遊の～」の範唱を聴く ・範唱を聴いて感じたことや、能について知っていることなどをワークシートに記入し、発表する。	・ 見1 生徒が謡曲に出会う場面で、教員が範唱して生徒に直接聴かせることで、生徒の感性を働かせるよう学習場面を工夫する。	
展開 (30分)	○謡曲の旋律の特徴を知覚し、その雰囲気を感じ取る。 ・既習の合唱曲「河口」の冒頭部分を歌唱する。 ・「河口」の旋律の動きを、手を上下させる動きで表現する。 ・羽衣「東遊の～」についても同様に行い、旋律の特徴について考える。 ○謡曲の音色の特徴を知覚し、その雰囲気を感じ取る。 ・合唱曲と同様の発声で「東遊の～」を歌唱する。 ・謡曲の音色の特徴や、発声のポイントとして考えられることをワークシートに記入する。 ○謡曲の特徴を生かして演奏するために、グループごとに仮説を立てる。 ・謡曲の音色の特徴や、発声のポイントとして考えられることをグループ内で発表し、共有する。 ・謡曲にふさわしい歌唱表現にするために、音色と旋律をどのように工夫するか、グループで仮説を立て、検証方法を考える。	・ 既1 既習曲「河口」の旋律と謡の旋律とを比較する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">河口 音程の変化に富んだ旋律 謡曲 音程の変化が少ない旋律</div> ・ 既1 合唱の発声と謡曲の発声(音色)とを比較する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">合唱の発声 豊かに響かせる発声 謡曲の発声 大きくうなるような発声</div> ・仮説を立てた上で、次時の試行錯誤する学習を行い、特徴を整理できるようにする。	音楽を形づくっている要素(音色、旋律)や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。 【創一①】 (観察、ワークシート) 《評価のポイント》 A：謡曲の旋律と音色の特徴を書き、それらと感じ取ったことを関わらせてワークシートに記入したり、話し合ったりしている。 B：謡曲の旋律と音色の特徴を書き、それらと感じ取ったことをワークシートに記入したり、話したりしている。 《Cと判断される生徒への手だて》 謡曲の旋律と音色の特徴を捉えられるよう、グループで再度、ハンドサインを用いたり「河口」との比較をしたりするよう促す。
まとめ (8分)	○本時を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・各班で仮説と検証方法を発表する。 ・ワークシートを記入する。	・本時で学習したことを振り返るとともに、それらを次回の学習につなげる意識をもたせる。 ・発問「謡曲を初めて聴いた時に比べて、今はどのような特徴を捉えて、どのように感じていますか？」	

コ 実践の成果と今後の課題

【題材に関わる既習の知識や技能を生かして生徒が学習できる授業展開の工夫】

既1 成果 既習の合唱曲と比較する場面を設けたことで、音色と旋律に焦点化して歌唱表現を創意工夫し、学習を積み重ねることができていた。

既1 課題 手を動かして旋律の動きを比較した際、友達の様子をまねて手を動かしているだけで、十分実感できていない生徒が一部に見られた。そのような生徒にも旋律の動きを意識させるような助言等の手だてを考えておく必要があった。

既2 成果 ワークシートに「よく聴くと、謡曲の演奏で習ったような部分と、もう少ししゃべっているような部分があって、飽きずに鑑賞できた。」と記載している生徒がいるなど、謡曲を表現する学習で得た知識・技能を視点として、能をどのように鑑賞するか見通しをもって学習することができていた。

既2 課題 謡曲の学習に十分取り組むことができなかった一部の生徒は、能の鑑賞においても見通しをもつことができなかった。鑑賞の前に、全ての生徒が見通しをもてるよう改めて助言を行うなど、更なる工夫が必要であった。

【音楽的な見方・考え方を働かせて表現したり鑑賞したりする学習場面の工夫】

見1 成果 教員の範唱を聴いた際に、平素の学習場面では発言の少ない生徒が、「日本の音楽ってなんでこんな声なんだろう。」等とつぶやくなど、関心をもって感性を働かせている様子が見られた。

見1 課題 範唱を聴く場面で、初めて学ぶ能の音楽をどう捉えていいのか戸惑いの表情を浮かべている生徒がいた。生徒の学習状況に応じて説明と範唱の順序を検討する等、一層の工夫が必要であった。

見2 成果 謡曲にふさわしい歌唱表現を試行錯誤する場面では、謡曲と合唱とで比較しながら音色・旋律に焦点を当てて、知覚したことと感受したことを関連させて表現に取り組む姿が見られた。

見2 課題 音色については「低く、下から響かせるような声を出したい」等の発言が生徒から多く聞かれたが、旋律の工夫についての発言は少なかった。生徒が旋律の特徴をより明確に捉えられるよう助言するなどの工夫が必要であった。

見3 成果 音色・旋律の特徴を捉えてワークシートに記述できた生徒が多かった。

見3 課題 ワークシートに、能のよさを味わうことができた記述が少なかった。音色や旋律の特徴と、能のよさとを結び付ける場面の工夫等が必要であった。

【学習した内容を振り返り、生徒が学んだことの意味や価値を自覚できる指導の工夫】

振1 成果 謡曲を初めて聴いた直後には「音楽に聴こえない。」等の否定的な記述が多かったが、学習を振り返る場面を設定することで、学習のまとめでは、「お腹から響くような声で、緊張感があった。」「音程の変化が少ないことで、独特の和っぽい雰囲気生まれていると感じた。」といった記述が増えた。

振1 課題 授業中に「能では、どうしてこのような声で謡うんだろう。」等の鋭いつぶやきをしていたにもかかわらず、振り返りに生かすことができていない生徒が一部に見られた。ワークシートの作成において、ワークシートの設問を生徒の思考に一層寄り添う形に改善することが課題である。

振2 成果 学習のまとめにおける生徒の変容を受けて、教員が「最初に書いたことを見て、今と比較してみよう。」と発問をしたことで、「最初は怖い感じにしか聴こえなかったけど、仕組みや工夫が分かってみると、日本が世界に誇れる音楽だと思った。」と発言する生徒がいるなど、自己の変容を自覚することができた。

振2 課題 自分自身の学びの過程を振り返ることができた生徒の発言は少なかった。変容に至る過程を振り返ることができるよう発問を工夫する必要があった。

サ 資料 実践事例1で使用したワークシート

<p style="text-align: center;">日本の伝統芸能「能」に親しもう！</p> <p style="text-align: center;">～能「羽衣」～</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">3年 組 番 氏名</p>	<p>⑤他のグループの演奏を聴いて、自分たちのグループと違う工夫があったら書きましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">メロディーの工夫</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">発声の工夫</td> </tr> </table>	メロディーの工夫	発声の工夫						
メロディーの工夫	発声の工夫								
<p>① 謡<small>うたい</small>を聴いてみて、どのような音楽の特徴がありましたか。また、そこからどのような雰囲気を感じましたか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">音楽の特徴</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">感じた雰囲気</td> </tr> </table>	音楽の特徴	感じた雰囲気	<p>⑥前時と本時の学習から、謡のメロディーと発声の特徴と、それらが生み出す雰囲気を整理しましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">メロディーの特徴</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">発声の特徴</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓ こうした特徴があることで…</p> <p>このような雰囲気を感じる。</p>	メロディーの特徴	発声の特徴				
音楽の特徴	感じた雰囲気								
メロディーの特徴	発声の特徴								
<p>②河口と謡のメロディーにはそれぞれどのような特徴があり、そこからどのようなことを感じますか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">河口のメロディーの特徴</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">謡のメロディーの特徴</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">↓</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">↓</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">特徴から感じられること</td> <td style="padding: 2px;">特徴から感じられること</td> </tr> </table>	河口のメロディーの特徴	謡のメロディーの特徴	↓	↓	特徴から感じられること	特徴から感じられること	<p>⑦能「羽衣」を鑑賞して、どのような音楽の特徴がありましたか。また、そこからどのような雰囲気を感じましたか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">音楽の特徴</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">感じた雰囲気</td> </tr> </table>	音楽の特徴	感じた雰囲気
河口のメロディーの特徴	謡のメロディーの特徴								
↓	↓								
特徴から感じられること	特徴から感じられること								
音楽の特徴	感じた雰囲気								
<p>③河口と謡の発声にはそれぞれどのような特徴があり、そこからどのようなことを感じますか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">河口の発声の特徴</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">謡の発声の特徴</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">↓</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">↓</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">特徴から感じられること</td> <td style="padding: 2px;">特徴から感じられること</td> </tr> </table>	河口の発声の特徴	謡の発声の特徴	↓	↓	特徴から感じられること	特徴から感じられること	<p>⑧能の全体像を知ろう。(教科書P40、41)</p> <p>⑨面や舞台など、能の全体を学んで鑑賞して、どのようなことを感じましたか。謡の学習で学んだことと結び付けながら考えて、書いてみましょう。</p>		
河口の発声の特徴	謡の発声の特徴								
↓	↓								
特徴から感じられること	特徴から感じられること								
<p>④メロディーと発声の特徴から、それぞれをどのように工夫したら謡らしい歌唱表現になるかグループで仮説を立てましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">メロディーの工夫</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">発声の工夫</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓ こうした工夫をすることで…</p> <p>このような表現ができるのではないだろうか。</p>	メロディーの工夫	発声の工夫	<p>⑩3時間の学習で、能についてどのようなことを学びましたか。また、学習する前後で、能や我が国の伝統的な音楽についての自分自身の考えに、どのような変化がありましたか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">学んだこと</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">自分自身の変化</td> </tr> </table>	学んだこと	自分自身の変化				
メロディーの工夫	発声の工夫								
学んだこと	自分自身の変化								

(2) 実践事例2

ア 題材名

口唱歌くちしょうがを唱えながら旋律の特徴をつかみ、そう(こと)箏そう(こと)にふさわしい表現を工夫しよう
(第1学年)

イ 内容のまとめ

〔第1学年〕「A表現」(2)器楽の活動及び〔共通事項〕(1)

ウ 題材の目標

- ・ そう(こと)箏そう(こと)の音色や箏曲の旋律、リズム(間)と奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「さくらさくら」を演奏するために必要な技能(姿勢や身体の使い方、爪の当て方などの基本的な奏法)を身に付けて演奏する。
- ・ そう(こと)箏そう(こと)の音色や箏曲の旋律、リズム(間)などの音楽を形づくっている要素や要素同士の間を口唱歌を唱えながら知覚・感受し、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、「さくらさくら」にふさわしい音楽表現を創意工夫する。
- ・ そう(こと)箏そう(こと)の音色や旋律、リズム(間)に関心を持ち、口唱歌を用いながら創意工夫してそう(こと)箏そう(こと)を演奏する学習に主体的・協働的に取り組み、我が国で長く親しまれているそう(こと)箏そう(こと)や箏曲に親しむ。

エ 本題材で扱う中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）の内容

<p>第1学年 A表現(2)器楽</p> <p>ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。</p> <p>(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり</p> <p>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能</p> <p>[本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素]</p> <p>音色、リズム（間）、旋律</p>

オ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>① 箏の音色や箏曲の旋律、リズム（間）に関心を持ち、口唱歌を唱えながら創意工夫して箏を演奏する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>	<p>① 箏の音色や箏曲の旋律などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じている。</p> <p>② 音色や旋律、リズム（間）など知覚・感受したことを基に、「さくらさくら」にふさわしい音楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 創意工夫を生かした表現で「さくらさくら」を演奏するために必要な技能（姿勢や身体の使い方、爪の当て方などの基本的な奏法）を身に付けて演奏している。</p>

カ 本題材における具体的な指導の工夫

【題材に関わる既習の知識や技能を生かして生徒が学習できる授業展開の工夫】

【既1】 生徒が小学校で歌唱している「さくらさくら」を教材として用いて、題材の目標を意識し、見通しをもって学習を積み重ねることができるよう、授業展開を工夫する。

【既2】 生徒の既習の知識である楽譜ではなく口唱歌によって伝承されてきた箏の歴史から、音色や旋律、リズム（間）に焦点化して授業を展開する。

【音楽的な見方・考え方を働かせて表現したり鑑賞したりする学習場面の工夫】

【見1】 生徒が口唱歌を伴った箏の音色に出会う場面で、本題材において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を強調して教員が範唱・範奏することで、生徒の感性を働かせるよう学習場면을工夫する。

【見2】 音色や旋律について、口唱歌にふさわしい表現を試行錯誤する場面を設定する。その際、二人一組で、お互いの演奏が口唱歌のように聴こえるか聴き合う場面を設定し、試行錯誤しながら思いや意図をもって演奏を創意工夫できるよう工夫する。

【見3】 「さくらさくら」の学習で知覚・感受した箏の響きと、我が国の文化的背景や演奏された環境とを関連付けて捉えることができるよう、学習場면을工夫する。

【学習した内容を振り返り、生徒が学んだことの意味や価値を自覚できる指導の工夫】

【振1】 口唱歌を学習する前と後で自らの演奏の音色がどのように変化したか、自らの考えやペアの意見を記録することができるワークシートを工夫するとともに、学習の過程を振り返る場面を設定し、生徒が学びを自覚できるよう工夫する。

【振2】 学習の過程を振り返るよう補助発問を工夫し、我が国で長く親しまれている箏や箏曲に親しむ学習を行ったことを自覚するよう促し、価値付ける。

	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム（間）と口唱歌「ン」との関わりを考える。 ・見3音色や余韻を楽しむ 箏の響きが生まれた我が国の文化的背景や演奏された環境について学ぶ。 ・振1口唱歌を学習する前と後で自らの音色がどのように変化したか考え、ワークシートに記入し、全体で共有する。 	<p>表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>【創-②】(観察、ワークシート)</p>
4	<p>◆口唱歌を唱えながら、二人一組で「さくらさくら」を練習し、思いや意図をもって演奏する。</p> <p>○二人一組で確認し合いながら、思いや意図をもって演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口唱歌担当と演奏担当に分かれ、交代しながら練習する。 ・どのような音色で演奏したいか、思いや意図をワークシートに記入し、練習する。 ・発表する。 ・振2学習したことを振り返り、学んだことの意味や価値として自覚したことをワークシートに記入し、全体で共有する。 	<p>箏の音色や箏曲の旋律、リズム（間）に関心を持ち、口唱歌を唱えながら創意工夫して箏を演奏する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p> <p>【関-①】(観察、ワークシート)</p>

ケ 本時（全4時間中の第2時間目）

○ 本時の目標

箏の音色や箏曲の旋律、リズム（間）を知覚・感受し、「さくらさくら」にふさわしい音楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもち、必要な技能を身に付けて演奏する。

○ 本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 指導の工夫	評価規準(評価方法)
導入 (10分)	<p>○前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の基本的な奏法を確認しながら「さくらさくら」を演奏する。 		
展開 (30分)	<p>○口唱歌について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による「さくらさくら」の範奏と口唱歌の範唱を聴く。 ・ 西洋音楽（五線譜）と比較して、伝承の仕方や口唱歌の役割を考える。 ・ 「さくらさくら」を口唱歌で歌う。 ・ 口唱歌で歌いながら「さくらさくら」を演奏し、「ツン」や「テン」、「コロリン」などの言葉と音との関係を考える。 ・ ペアごとに、各自で捉えた言葉と音との関係を共有する。 ・ 発表し、クラス全体で共有する。 ・ 「コロリン」に聴こえる弾き方をペアで聴き合いながら練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見1生徒が口唱歌に出会う場面で、教員が範唱して生徒に直接聴かせることで、生徒の感性を働かせるよう学習場面を工夫する。 ・ 既2生徒の既習の知識である楽譜による伝承とは違うことを生かし、箏曲の口唱歌による伝承が、どのようなことを伝えようとしているものか考えさせる。 ・ タ行、カ行はきっぱりと、ラ行は柔らかく、等を共有する。 ・ 見2箏を弾きながら「コロリン」に聴こえるかペアで聴き合って練習する。 ・ 状況により「逆に、コロリンに聴こえないのは、どういう弾き方かな」等と助言する。 	<p>箏の音色や「さくらさくら」の旋律などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じている。</p> <p>【創-①】(観察、ワークシート)</p> <p>《評価のポイント》</p> <p>A：音色・旋律が口唱歌の表すイメージに合うように、知覚・感受の関わりについて考えながら、奏法を様々な工夫し、何度も試している。</p> <p>B：音色・旋律が口唱歌の表すイメージに合うように、知覚・感受の関わりについて考えながら奏法を工夫している。</p>

			《Cと判断される生徒への手だて》 音色・旋律の具体的な創意工夫を提示し、活動できるように働き掛ける。
まとめ (10分)	○口唱歌を学んだ前後で自分の演奏がどのように変わったか振り返る。 ・ワークシートに記入し、全体で共有する。	・ 振1 口唱歌を学習する前と後で自らの音色がどのように変化したかワークシートに記入させ、全体で共有する。	

コ 実践の成果と今後の課題

【題材に関わる既習の知識や技能を生かして生徒が学習できる授業展開の工夫】

既1 成果 「知っている曲だったので、どう工夫するか考えやすかった。」と発言した生徒がいるなど、見通しをもって学習を進めている様子が見られた。

既1 課題 見通しを意識できない一部の生徒に対し、より明確に見通しがもてるよう授業展開を明示するなど工夫することが課題である。

既2 成果 生徒の既習の知識である楽譜による伝承とは違う、箏曲の口唱歌による伝承を生かして授業を展開することにより、自然な形で音色や旋律、リズム（間）に焦点化して学習することができた生徒が多かった。

既2 課題 口唱歌の語感を捉えることができず、試行錯誤の時間を持て余してしまう生徒がおり、支援が必要だった。授業展開として、口唱歌の語感をより明確に捉える場面を設ける必要があると感じた。

【音楽的な見方・考え方を働かせて表現したり鑑賞したりする学習場面の工夫】

見1 成果 「生で聴いたから、箏の音色と口唱歌との結び付きが分かりやすかった。」と発言した生徒がいるなど、生徒の感性を働かせる第一歩とすることができた。

見1 課題 最初に感性を働かせても、その後は演奏技術のみを追究する生徒が一部にいた。生徒が働かせた感性を、題材全体の指導にどう生かすかが課題である。

見2 成果 口唱歌にふさわしい表現を二人一組で試行錯誤する場面を設定することで、「コロリンは、初めはぱきっと爪を当てて、その後は優しく前に押していけばいい。」など、仲間と協働して思いや意図を更新しながら創意工夫できていた。

見2 課題 「リズムを合わせやすくなった。」や「弾き間違いがなくなった。」等、口唱歌を技能面からしか捉えられない生徒が多数いた。口唱歌を唱えることの意味を全体で共有する場面の指導を、より丁寧に行う必要があった。

見3 成果 「箏の学習をして、繊細な音色は演奏者や演奏される場所（我が国の家屋）と密接に関わっていることが分かりました。」等、音や音楽を伝統や文化と関連付けて捉えている生徒が多数いた。

見3 課題 関連付ける学習場面を第3時に設定したが、第4時のまとめの際にも位置付け、より強調する必要があった。

【学習した内容を振り返り、生徒が学んだことの意味や価値を自覚できる指導の工夫】

振1 成果 ワークシートの振り返りでは、「小学校の時はあまり意識しなかったけど、今回習った口唱歌くちしょうがを意識して弾いてみたら、音の形がはっきりすると感じました。」など、学んだことの意味や価値を自覚できている記載が多かった。

振1 課題 ワークシートに、箏 そう(こと)を弾けたことに満足した旨のみを記載した生徒が何人かいた。発問を工夫して学習の流れを全体で再確認するなどして、学んだことの意味や価値を生徒がしっかりと捉えられるようにすることが課題である。

振2 成果 「今までは、箏 そう(こと)を聴いても、お正月っぽいとかしか思わなかったけど、今回学習を生かして、これからはもっと大切に聴いていきたいと思いました。」等、学習の過程を振り返り、学びを自覚している姿が見られた。

振2 課題 補助発問を重ねても「工夫をすれば音が変わることが分かりました。」等、技能的な振り返りのみを記載している一部の生徒に対して、補助発問を一層工夫することが課題である。

サ 資料 実践事例2で使用したワークシート

<small>箏</small> にふさわしい()で 「さくらさくら」の表現を工夫しよう！		1年組 番 氏名
①「さくらさくら」を聴いてみて、どのような音楽の特徴がありましたか。また、そこからどのような雰囲気を感じましたか。		
音楽の特徴	感じた雰囲気	
②口唱歌 <small>くちしょうが</small> を唱えながら演奏した「さくらさくら」を聴いて、感じたことを書きましょう。		
③口唱歌について 箏を伝承してきたのは、どのよう何を、どのように伝えてきたので な人たちでしたか？ しょうか。		
皆さんが、これまで学んできた音楽の伝承方法はどのようなもので、何を、どのように伝えてきたのでしょうか。		
④「コロリン」を工夫して演奏しよう。		
「コロリン」の特徴	特徴から感じられること	特徴を生かすための具体的な演奏の工夫
⑤「間」を生かして演奏するために、口唱歌のどの部分を意識して演奏するとよいでしょうか？		
⑥箏が演奏されてきた環境について 箏は、どのような環境(空間・場所)で演奏されていたと思いますか？ そのような環境(空間・場所)では、音はどのように聴こえたでしょうか。		
⑦箏にふさわしい音色について		
⑧口唱歌を学ぶ前と後で、箏の音色や「さくらさくら」のメロディー、リズム(間)にはどのような変化がありましたか。		
自分で感じた変化		
友達が感じた変化		
⑨4時間の学習で、箏についてどのようなことを学びましたか。また、学習する前と後で、箏や我が国の伝統的な音楽についての自分自身の考えに、どのような変化がありましたか。		
学んだこと	自分自身の変化	

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 題材に関わる既習の知識や技能を生かして生徒が学習できる授業展開の工夫

本研究では、生徒が見通しをもって学習したり、学習を積み重ねたりできるよう、題材に関わる既習の知識や技能を活用しながら、生徒が見通しをもって新たな知識や技能を習

得したり活用したりする場面を工夫した。

検証授業では、謡と既習の合唱曲とを比較する場面を設けたり、小学校における既習の作品を教材にしたりすることで、学習内容を自然な形で焦点化して提示することができた。それにより、生徒が見通しをもって、活動を楽しみながら主体的に学習を積み重ねている様子が見られた。

(2) 音楽的な見方・考え方を働かせて表現したり鑑賞したりする学習場面の工夫

本研究では、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて学習している姿を想定し、その姿が実現できるよう、曲にふさわしい表現を試行錯誤したり、音楽のよさを味わって聴いたりする学習場面を工夫した。

検証授業では、生徒が音楽と出会う場面で、教員が実際に演奏して聴かせた。実際の演奏を聴かせることは、生徒の題材に対する意識を集中させ、生徒の感性を働かせる有効な手段であると確認できた。また、既習の知識や技能を活用して学習を焦点化し、試行錯誤する場面を設けることで、生徒は音楽活動を楽しみながら創意工夫することができていた。

(3) 学習した内容を振り返り、生徒が学んだことの意味や価値を自覚できる指導の工夫

本研究では、生徒が学習した内容を振り返り、生徒が学んだことの意味や価値を自覚できるよう、振り返りの学習場面や発問、ワークシートを工夫した。

検証授業では、初発の知覚・感受からまとめまでを見取ることのできるワークシートを工夫するとともに、題材の終末において、自分の最初の感想と今の感想とを比較するよう発問を行う等の工夫を行った。その結果、学んだ内容や学びの過程の意味や価値を具体的に記載している生徒が多く見られた。

2 研究の課題

(1) 題材に関わる既習の知識や技能を生かして生徒が学習できる授業展開の工夫

いずれの検証授業においても、一部に見通しをもつことが難しい生徒が見られた。見通しをもつ場面を設定するだけでなく、既習の知識や技能をより意図的に振り返らせるとともに、必要な生徒には個別に助言を行うなどの工夫が必要であった。

(2) 音楽的な見方・考え方を働かせて表現したり鑑賞したりする学習場面の工夫

本研究では、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせている姿のうち、特に「音や音楽を、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けている」姿が十分に見られない場面があった。それにより、我が国の伝統音楽のよさをしっかりと味わって愛着をもつまでに至らない生徒も見られた。音楽的な特徴と、その音楽のよさとを結び付けることができる手だてを丁寧に準備した上で、場面設定を工夫する必要がある。

(3) 学習した内容を振り返り、生徒が学んだことの意味や価値を自覚できる指導の工夫

検証授業においては、生徒が振り返りを適切に記載できるよう、ワークシートを改善することが共通の課題であった。振り返りの前に、学習の流れを全体で再確認するよう発問を工夫したり、ワークシートの流れや設問を工夫するなどして、生徒が学んだことの意味や価値を、より明確に自覚できるよう改善していく必要がある。

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

中学校・音楽

学 校 名	職 名	氏 名
足立区立入谷南中学校	教諭	木下真一
葛飾区立水元中学校	教諭	◎上野和久

◎ 世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 澁谷 創平

平成 31 年度 (2019 年度)
教育研究員研究報告書
中学校・音楽

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849